

## 拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2004-115629
起案日	平成19年 5月16日
特許庁審査官	吉川 陽吾 9811 2V00
特許出願人代理人	山下 穰平(外 1名) 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

### 理 由

#### 理由1

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。

#### 理由2

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

請求項1-4、9、13

理由: 1、2

引用文献等: 1-5

引用例1乃至5には、第1及び第2のリニアセンサが、同一の画素ピッチであり、平行に隣接し、互いに並び方向に0.5画素分ずらして配置され、該第1及び第2のリニアセンサの出力を用いて位相差方式の焦点検出を行うオートフォーカス用個体撮像素子及び該オートフォーカス用個体撮像素子を備えたカメラが記

載されている（引用例1請求項1乃至4、【0033】、引用例2第2頁左上欄第10行目乃至右上欄第14行目、引用例3第2頁左下欄第6行目乃至第3頁左上欄第15行目、第3頁右上欄第15行目乃至右下欄第10行目、引用例4請求項2、【0046】、引用例5【0017】、【0018】参照）。

請求項5、6

理由：2

引用文献等：1－5

位相差方式の焦点検出を行うものにおいて、同じ焦点検出領域に対して、異なる基線長を有する複数のセンサ対を備えることは周知である（例えば、文献6【0033】、図23、文献7請求項1乃至4参照）。引用例1乃至5に記載のオートフォーカス用個体撮像素子に当該構成を採用することは、当業者であれば容易になし得るものである。センサの具体的な配置位置は、当業者が適宜設計するものと認める。

請求項7、8

理由：1、2

引用文献等：1

引用例1に記載のオートフォーカス用個体撮像素子は、画面内の複数の位置にて焦点検出を行うものであり、画面中央の位置において、前記第1及び第2のリニアセンサの構成を有している。

請求項7、8

理由：2

引用文献等：2－5

オートフォーカス装置において、画面内の複数の位置にて焦点検出を行う構成は周知である（例えば、引用例1参照）。

してみれば、引用例2乃至5に記載のオートフォーカス用個体撮像素子に当該構成を採用し、中央の位置にて前記第1及び第2のリニアセンサを有する構成とすることは、当業者であれば容易に想到し得るものである。

請求項10、11

理由：2

引用文献等：1－5

画面内の複数の位置にて焦点検出を行うオートフォーカス装置において、各位置の像信号の積分を独立して行う構成は周知である（例えば、文献8【0025】、文献9【0043】参照）。

当該構成を、引用例1乃至5に記載のオートフォーカス用個体撮像素子に採用することは、当業者であれば容易になし得るものである。

請求項 1 2

理由: 2

引用文献等: 1 - 5

オートフォーカス用個体撮像素子をCMOS型としたものを周知である（例えば、文献10【0011】、文献11【0121】参照）。

当該構成を、引用例1乃至5に記載のオートフォーカス用個体撮像素子に採用することは、当業者であれば容易になし得るものである。

#### 引用文献等一覧

- 1.特開平10-104503号公報
- 2.特開昭59-105606号公報
- 3.特開昭61-028913号公報
- 4.特開平06-018779号公報
- 5.特開平11-211467号公報
- 6.特開平11-281877号公報
- 7.特開平03-164709号公報
- 8.特開2004-020742号公報
- 9.特開2001-337264号公報
- 10.特開2003-107340号公報
- 11.特開2001-100258号公報

理由3

この出願は、発明の詳細な説明の記載が下記の点で、特許法第36条第4項及び第6項第1号に規定する要件を満たしていない。

#### 記

1. 請求項1の「前記第1リニアセンサ対と前記第2のリニアセンサ対との両方を用いて焦点検出のための信号出力を行う」をどのように実施しているのか、発明の詳細な説明を見ても明確でない。

#### 【補足】

第1のリニアセンサ対からの出力と第2のリニアセンサ対からの出力とを、どのように利用して焦点検出を行うのか明確でない。

2. 請求項1、3-13に記載の構成にて課題を解決し得る発明は、発明の詳細

な説明に記載されていない。

【補足】

第1のリニアセンサと第2のリニアセンサが、単に“ずらして配置されている”というのみでは、課題を解決できないのではないか（例えば、画素の整数倍だけずらして配置されている場合等）。

---

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野      I P C 第7版  
                         G 0 2 B 7 / 2 8 - 7 / 4 0

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第一部光学装置 吉川 陽吾  
TEL. 03(3581)1101 内線3269